



小中学校における遠隔教育実証研究事業 質の高い教育で学力向上 ～笠間市と大子町の取組～

＜笠間市＞ ピンポイント型遠隔授業(外国語科)

配信校：岩間第三小、受信校：岩間中

笠間市では、受信校の第1学年(令和2年度)、第2学年(令和3年度)を習熟度別(選択制)にしました。「アドバンスコース」の生徒には、配信校に配置された専門人材であるネイティブスピーカーによる外国語科の授業を、「スタンダードコース」の生徒には、受信校の外国語科教員が対面で同様の授業を実施しています。

今年度は、1人1台端末で「思考力」「プレゼンテーション力」「英語4技能」を育てられる授業支援クラウドの機能を効果的に活用しながら、特に、「話すこと[発表]」における言語活動の充実を図っています。

1人1台端末環境での遠隔授業(主な取組と効果)

○反転授業の充実

事前に生徒の端末でトピックや評価基準を共有し、授業で使うプレゼンテーション資料については、生徒が自宅でも作成できるようにしています。「話すこと[発表]」に重点を置いた授業が展開できます。

○中間指導の充実

生徒たちのプレゼンテーション資料を作成途中で集約し、指導と評価をしています。指導と評価の一体化につながり、英語による表現の正確さ及び内容の適切さが高まります。

○学習状況の把握

端末上で生徒の学習状況を常に確認し、生徒からの質問に答えたり、適切なアドバイスを行ったりします。英語でのやり取りを大切にしたい授業を効果的・効率的に進めることができます。



＜大子町＞ エリア型遠隔授業(算数・数学科)

配信校：上小川小、受信校：依上小、袋田小、生瀬小、さはら小
配信校：生瀬中、受信校：南中、大子西中

大子町では、令和2年度から、遠隔教育実証研究校として、算数・数学科の授業実践を進めています。また、大子町は、以前からクラウド型のオンライン学習ツールを活用した教育活動を推進しています。そのため、この遠隔教育においても、それらの機能を有効に活用しながら、授業を実践しています。

本来であれば、授業を広く公開し、その成果を共有するところですが、新型コロナウイルス感染予防のため、参加者を絞っての授業公開を行いました。小学校・中学校ともに、素晴らしい授業が実践され、熱心に学習に取り組む児童生徒の姿が見られました。

ディスプレイに、授業者(左)、本時の課題や児童の考え(中央)、他校の様子(右)を表示



受信校：1人1台端末環境で学ぶ子供たち

児童生徒

1人1台端末環境での遠隔授業(主な効果)

授業者

- 互いの考えの過程や学びの蓄積を可視化することで、多様な考えや表現に触れることができ、自分の考えを深めることができました。
- 授業の様々な場面において、児童や生徒同士で、端末の有効な活用法を見いだしたり、共有したりすることができました。
- 学習活動の規模が広がり、コミュニケーション力や表現力向上への意識が高まりました。
- 他校の状況や様子を知り、学習意欲や相手意識が高まりました。

- 協力して教材研究を進めることで、教材の捉え方や授業改善への視野が広がりました。
- 端末を活用して思考したり表現したりする活動について検討することで、効果的な実践事例が蓄積されるとともに、これまでの授業の在り方を見直すことにつながりました。
- 他校の授業者の普段の働きかけや手立てが共有され、授業改善への意識が高まりました。
- 他校の状況や様子について把握でき、自校の学級や教科の経営に活かされました。

今後、笠間市と大子町の授業実践や取組を動画と報告書にまとめ、web上に公開いたします。